

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
長岡市	長岡川西地区（下川西、上川西、福戸、王寺川、日越、関原、宮本、大積、深沢、才津）	令和3年3月29日	令和3年3月29日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	3,188.16ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	2,287.32ha
③地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計	1,091.57ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	667.17ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	97.76ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	682.35ha
（備考）担い手への集積率は6割を超えており、中間管理事業の活用率も高く、ほぼ集約化が完了している。	

※1④の数値については、アンケート結果に基づく今後の規模拡大面積の合計

2 対象地区の課題

<p>今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積が、65才以上で後継者未定の農業者の耕作面積よりも多いが、地区によって差があり、後継者不足も課題である。</p> <p>小規模農家も多数いる中で、機械整備やその他の支援策・補助事業等がこうした小規模農家には十分ではなく、地域を守る担い手を苦しめている。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

下川西集落：後継者がいない農地や、規模縮小を希望する農地等を、規模拡大を希望する認定農業者等を中心に集約する。
上川西集落の農地利用は、ほぼ集積が完了しており、今後も中心経営体である認定農業者、認定農業法人が担う。
福戸集落の農地利用は、ほぼ集積が完了しており、今後も中心経営体である認定農業者、認定農業法人が担う。
王寺川集落の農地利用は、中心経営体である認定農業者、認定農業法人が担う。
日越集落の農地利用は、中心経営体である認定農業者、認定農業法人が担う。
関原集落の農地利用は、中心経営体である認定農業者10経営体が担うほか、耕作者で構成する利用調整組合の中で対応していく。
宮本集落の農地利用は、中心経営体である認定農業者、認定農業法人が担う。
大積集落の農地利用は、中山間直払協定により維持していく。
深沢集落の農地利用は、中心経営体である認定農業者、認定農業法人が担う。
才津集落の農地利用は、中心経営体である認定農業者、認定農業法人が担う。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。